



## 様々な生きづらさを抱えて…

### 女性のひきこもり



#### ひきこもりの現状

いまや、ひきこもりは110万人を超えているといわれています。さらに、40代以上のひきこもりが60万人を超えているとの調査結果もあり、近年は80代の親が50代の子を養う「8050問題」が世間を騒がせました。

扉の向こうの暗い部屋で息を潜めている…というのがひきこもりのイメージとして強いと思いますが、実際には、自分の趣味の用事には出かける、コンビニにはいく人たちも多く、自宅から一步も出ない人ばかりではありません。

#### 見えづらい女性のひきこもり

女性は社会に出なくてもよいという偏見や、家事や育児は女性の仕事という思い込みがいまだに社会にあります。そのため、女性は、家庭の中において外と交流せず、家族や夫としか話さなくても、家事や育児をしていれば問題はないと思われがちです。「家事手伝い」や「専業主婦」という名のもとで、女性のひきこもりは見えづらくなっています。

孤立感

社会からの疎外感、排除感。私はいなくてもいい?

仕事や家庭のない自分に劣等感。

ひとりぼっちでお金もない恐怖感。

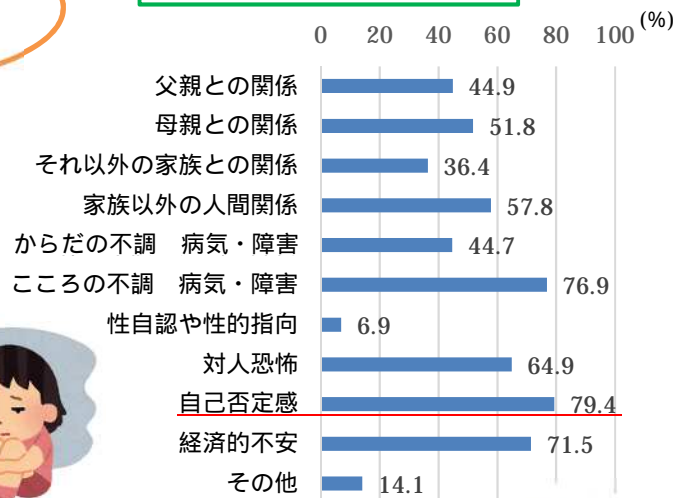
自宅時間が多くなり友達と疎遠に。

親は精神的支えでもあるけれど、生きづらさの原因でもある。

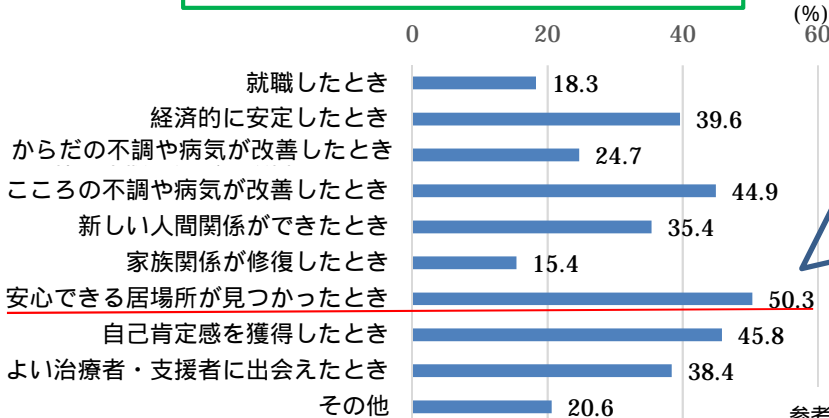
おしゃべり



#### 生きづらさの理由(女性)



#### 生きづらい状況が軽減/改善したとき



「ひきこもり女子会」を開催している「ひきこもり UX 会議」によると、ひきこもっている女性の多くは男性に苦手意識がある人が多いそうです。彼女たちが安心して集まれる場所をつくり、「孤立」させないでつながりを持つことも支援の一つです。

参考資料：厚生労働省 HP、東京都 HP

「ひきこもりの真実」林恭子著

グラフはひきこもり UX 会議「ひきこもり白書 2021」より

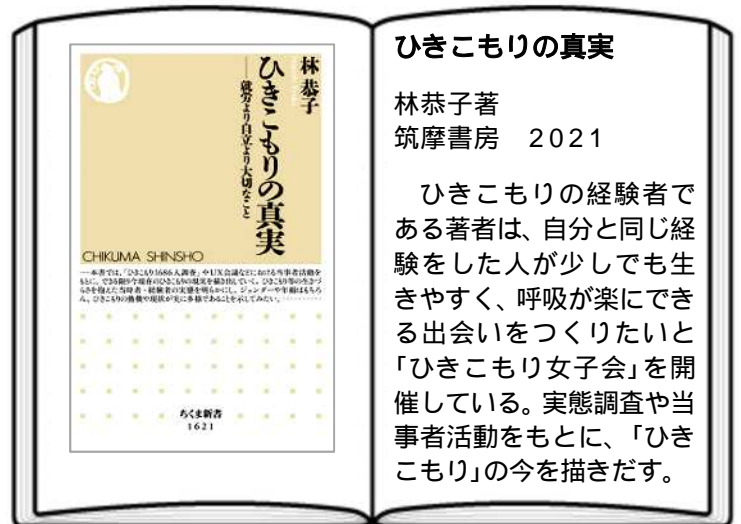


ひきこもり

好きでひきこもっているわけではありません。ひきこもりは、「甘えているだけ」「怠けているだけ」と楽をしているように見えますが、ひきこもっていることほど辛いことはありません。

ひきこもりから抜け出すために、小さな小さな目標から始めましょう。焦りは禁物です。何度失敗してもいいのです。他人に頼っていいのです。人に相談してみましょ。ひきこもりを支援する社会資源は案外身近なところにあるものです。

(参考資料:「東京都ひきこもりサポートネット」より)



ひきこもりの真実

林恭子著  
筑摩書房 2021

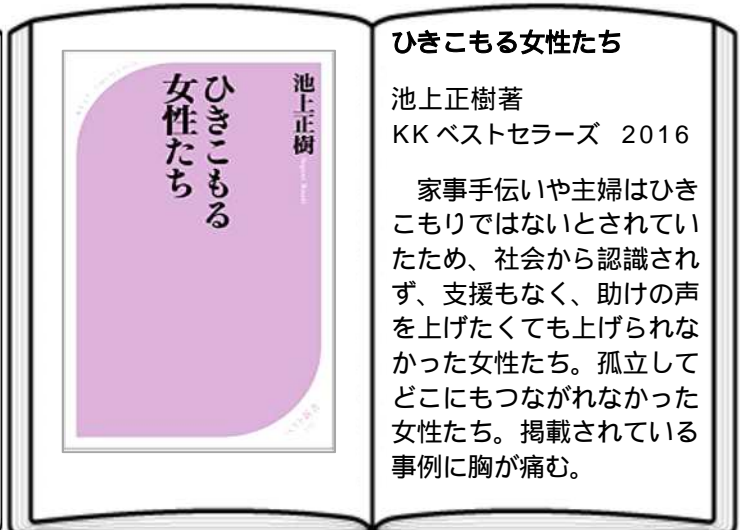
ひきこもりの経験者である著者は、自分と同じ経験をした人が少しでも生きやすく、呼吸が楽にできる出会いをつくりたいと「ひきこもり女子会」を開催している。実態調査や当事者活動をもとに、「ひきこもり」の今を描きだす。



中高年ひきこもり

斎藤環著  
幻冬舎 2020

事件が起こるたびに人々の関心が高まる「ひきこもり」。世間の誤解と偏見は根強い。何が正しい支援なのか。「就労しない自由」を認めずして就労支援はできない。家族は、安心して本人がひきこまれる関係作りをすることが重要と著者はいう。



ひきこもる女性たち

池上正樹著  
KKベストセラーズ 2016

家事手伝いや主婦はひきこもりではないとされていたため、社会から認識されず、支援もなく、助けの声を上げたくても上げられなかった女性たち。孤立してどこにもつながれなかった女性たち。掲載されている事例に胸が痛む。

相談してみませんか。



東京都ひきこもりサポートネット(相談は原則無料です)

\* 電話相談 ☎ 0120-529-528 月～金 10:00～17:00  
年末年始・祝日を除く

その他、ご家族等のためのオンライン相談、メール相談、訪問相談を実施しています。詳細はHPをご覧ください。



練馬区「ひきこもり」に関する相談窓口

ご相談内容に応じて、必要な支援機関につなげます。

\* 生活や仕事の相談

生活困窮者自立相談支援・就労準備支援・家計改造支援

生活サポートセンター 3993-9963 FAX 3993-1180 平日 8:30～17:15

\* 自立や仕事に関する相談 対象: 15歳～49歳の方

ねりま若者サポートステーション ☎ 5848-8341 木・日曜・祝休日を除く 10:00～17:00

\* その他、「からだやこころの健康に関する相談」「生活費や家庭の相談」

「家族(高齢者)の介護や医療の相談」についてはHPを参照ください。





母親になって後悔している

オルナ・ドーナト著  
新潮社 2022

母親になったことを後悔していても、子どもは愛しているのだ。だからこそ、余計に苦しい。「母親」という社会的な役割にがんじがらめになり、自分の人生を生きられない苦しさ。様々な女性へのインタビューを掲載している。



お嬢さんと嘘と男たちのデス・ロード

北村紗衣著  
文藝春秋 2022

アクション映画「マッドマックス」はケアと癒しの話、「ロミオとジュリエット」のスピード婚の理由、レッドツェペリンは男らしさにとられていたバンド、等、著者独特のフェミニズムの視点で芸術作品について批評。



目の見えない白鳥さんとアートを見に行く

川内有緒著  
集英社インターナショナル 2021

全盲の白鳥さんは、美術館で絵を「見る」のが大好き。そして毎日散歩に行き、愛用しているデジタルカメラで写真を撮る。自分で見返すこともなく。「見る」こととはなんだろうか。



外国人差別の現場

安田浩一、安田菜津紀著  
朝日新聞出版 2022

スリランカ人ウイシュマさんが入管施設で亡くなったことで、私たちは施設の実態を知る。世の中にあふれるヘイトスピーチは無知と無理解がうみだす。著者は差別の現場取材し、外国人の人権を無視した日本の差別政策の事実を私達に伝える。

分類	書名	著者名	発行
143	他人をコントロールせずにはいられない人	片田珠美	朝日新聞出版
146	メンタライゼーションでガイドする外傷的育ちの克服	崔 炯仁	星和書店
309	私だったかもしれない ある赤軍派女性兵士の25年	江刺昭子	インパクト出版会
361	日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション	デラルド・ウィン・スー	明石書店
366.2	公務員という仕事	村木厚子	筑摩書房
367.1	新しい声を聞かばくたち	河野真太郎	講談社
367.1	自慢話でも武勇伝でもない「一般男性」の話から見えた生きづらさと男らしさのこと	清田隆之	扶桑社
367.1	フェミニズムがひらいた道	上野千鶴子	NHK出版
367.1	フェミニズムってなんですか？	清水晶子	文藝春秋
367.7	定年後も働きたい。	松本すみ子	ディスカヴァー・トゥエンティワン
367.9	黙殺される教師の「性暴力」	南彰	朝日新聞出版
375	僕が家庭科教師になったわけ	小平陽一	太郎次郎エディタス
392	女性自衛官	上野友子	光文社
779	言葉の花束	サヘル・ローズ	講談社
910	ペガサスの記憶	桐島洋子	小学館
914	今を生きるあなたへ	瀬戸内寂聴	SBクリエイティブ
914	「できる」と「できない」の間の人	樋口直美	晶文社
933	パープル・ハイビスカス	チママンダ・ソグズィ・アディーチェ	河出書房新社
まち	宙ごはん	町田そのこ	小学館



# にゅーすBOX

## 女性当選者 最多

今年7月に行われた参議院選挙で、女性候補者35人が当選、過去最多となった。当選者全体に占める女性の割合は28%で、令和元年から5.4ポイント増加。今回は過去最多の181人の女性が立候補しており、全候補者に占める女性の割合も初めて3割を超えたが、候補者の割合と比べると当選者の女性比率は低かった。

## 未婚者3割「出会いが減った」

令和4年版「少子化社会対策白書」によると、コロナ禍前と比べて、未婚者の3割が「出会いが減った」と感じていると回答。また、父親と母親の家事・育児時間がどれくらい増減したかを調べた結果、2割超増えたと回答した割合は、女性の方が高かった。白書は、「在宅時間が増える中、女性の家事・育児の負担がより重くなっている」と分析している。

## AV被害救済法 成立

アダルトビデオ(AV)の出演被害を防止し、出演者を救済するための新法が成立した。成人年齢引き下げで、未成年者取り消し権の対象外となる18、19歳の被害増加を懸念し議員立法としてまとめた。内容は、撮影の具体的な内容を書面で交付、契約から撮影まで1か月、撮影から公表まで4か月あける、性行為は拒絶でき、賠償責任はないなど。

## 東京都 子ども食堂設置数 全国首位

東京都は、子どもに定額や無料で食事を提供する「子ども食堂」の設置数が全国トップで、小学校区内に立地する「充足率」も全国4位。事業への支援も広がっており、都住宅供給公社は4月、子ども食堂や学習支援などを手掛ける団体を対象に、東京・多摩地域の団地にある賃貸店舗で賃料の優遇制度を導入した。今後新型コロナウイルスの影響で運営が厳しくなる恐れがあり、事業を続けていくためには、官民による金銭面以外の踏み込んだ支援策が重要となりそう。

## 更年期障害 初の意識調査

厚生労働省の意識調査によると、ほてりやめまいといった更年期症状から日常生活に支障が出る「更年期障害」の可能性があると考えている人の割合が50代女性で38.3%に上った。40代女性は28.3%、男性は40代が8.2%、50代が14.3%だった。症状を自覚しても未受診は40代・50代ともに8割、男性は9割近くだった。

## 練馬区 全送付物に「音声コード」印字

区は、障害がある人の情報保障に取り組むため、今年度から印刷する全ての封筒にスマートフォンで読み込むと内容物の説明が流れる「音声コード」を添付している。全ての送付物に添付するのは23区初。

## 男女共同参画白書 閣議決定

政府は令和4年版の「男女共同参画白書」を閣議決定した。事実婚や未婚の増加など人生や家族の姿が多様化したことを「もはや昭和ではない」と表現。配偶者控除の見直しなど世帯ではなく個人単位の制度への移行を提起した。婚姻件数は51万4千件に減少、戦後、最も少ないという。また、20代の女性の約5割、男性の約7割は「配偶者、恋人はいない」という調査結果が出ている。

## 性暴力被害 4人に1人

内閣府は、インターネット上で、16歳~24歳の男女22万1千人を対象にアンケートを実施。有効回答者(6,224人)のうち、何らかの性被害を受けたとの回答は1,644人(26.4%)、およそ4人に1人が何らかの性暴力の被害を受けたことがあるとの調査結果だった。被害内容の最多は「言葉による被害」で17.8%、被害を受けた人を対象にした調査による加害者との関係では、「通っていた(いる)学校・大学の教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など」が36.0%で最も多かった。

## 性別理由の不合格 6割減

都教育委員会は、都立高入試の男女別定員制に向けた段階的措置の実施状況を発表。今年度入試で定員の1割について性別に関係なく成績順で合否を決めた結果、性別を理由に不合格となる生徒が昨年度から6割減った。昨年度、成績が上位に入りながら性別が理由で不合格の生徒は786人いたが、今年度は299人に減った。うち女子が284人に達した。

## 離婚していなくても児童扶養手当可

配偶者と別居して一人で子どもを育てても、離婚が成立していないと、児童扶養手当を受け取れないという。これに対して厚生労働省は、配偶者からの定期的な仕送りや連絡がなければ、実態として養育放棄していると、離婚の調停や裁判の最中でも手当を受給できるとの考えを示し、全国の自治体に通知した。

## ジェンダー・ギャップ指数 日本116位

世界経済フォーラムが発表したジェンダー・ギャップ指数で、日本は146か国中116位だった。韓国や中国より低く、主要7か国(G7)で最低だった。ジェンダー・ギャップ指数は男女平等の度合いを示すもの。日本は政治と経済の2分野で著しく低かった。

